

日本救急医学会関東地方会 平成 30 年度 幹事会 議事録

日 時：平成 30 年 1 月 27 日（土）12：30～13：20

会 場：東京大学本郷キャンパス 第 2 会場（医学部教育研究棟 14 階 鉄門記念講堂）

〒113-0033 東京都文京区本郷 7 丁目 3-1 TEL:03-3812-2111

出席役員

常任幹事：三宅 康史（常任幹事長）、森村 尚登（会長）、河野 元嗣、佐藤 憲明、田中 裕、武田 宗和、
松田 潔

監 事：坂本 哲也、山口 芳裕

以上のとおり、出席者を確認し、会則第 17 条の規定により、三宅康史常任幹事長が議長となり、議長が開会を宣言した。

新幹事推薦(三宅常任幹事長)

新幹事 11 名の推薦が行われた。今回の候補者については、会員歴、会費納入状況等の資格について事務局が調査済みであり、先に行われた常任幹事会で承認済みであることが報告された。新幹事 11 名が承認され、出席の新幹事より就任の挨拶があった。

物故会員黙祷(三宅常任幹事長)

庶務報告に先立ち、物故会員(名誉・中田 義隆 先生)が報告され、黙祷をおこなった。

《報告事項》

1. 庶務報告(河野常任幹事)

2017 年 12 月 31 日時点での総会員数は 1,125 名(うち新会員 129 名)、退会者数 177 名(うち 161 名は会費滞納による自然退会)との報告がされた。会員数はほぼ横ばいから微減で推移している。

2. 各常任幹事担当報告

各担当常任幹事より部会および委員会について活動報告が行われた。

① 看護部会(佐藤常任幹事)

2017 年度は学術総会時に運営委員会および施設代表者会を開催、また 6 月に 1 回看護部会運営委員会が開催されたことが報告された。12 月については開催しなかった。

また、看護部会の拡大を企画し、学術総会時以外にシンポジウムの開催を検討していることが報告された。参加者から参加費を徴収することで、収支的にはゼロバランスでの開催を目指すこととされた。

② 救急隊員部会・関東地方 MC 検討委員会(松田常任幹事)

同日開催の第 68 回日本救急医学会関東地方会学術集会会場にて開催予定の第4回関東地方 MC 協議会連絡会について、担当の松田常任幹事より報告された。「病院前救護プロトコルの工夫」をテーマとし、同テーマに沿った各都県メディカルコントロール関係者からの発表等を予定している。

また日本臨床救急医学会から PEACE コースの開催依頼があったことが報告され、こちらについても森村会長と開催を了解、同会場にてジョイント開催することが報告された。

③ SOS-KANTO 委員会・他施設研究検討委員会(武田常任幹事)

SOS-KANTO2017 の検討内容や予定について、担当の武田常任幹事より資料に沿って実施予定が報告された。

④ 関東地方災害医療検討委員会(河野常任幹事)

本日の第 68 回(平成 28 年)日本救急医学会関東地方会にて第 2 回関東医療連絡会議を開催することが報告された。「局地災害に対する急性期災害医療を近隣県はどのようにコーディネートしたか」をテーマとし、同テーマに沿ってのディスカッションを予定している。

⑤ 編集委員会(田中常任幹事)

日本救急医学会関東地方会雑誌第 38 巻 2 号を編集、発行した。

昨年度の第 67 回(平成 29 年)日本救急医学会関東地方会での演題発表 224 件から 58 本(医師部会:49 本、看護部会:5 本、救急隊員学術研究会:4 本)の投稿があり、投稿率は 25.8%と昨年度から落ち込んだ。最終的に掲載された論文は 64 本(医師部会:58 本、看護部会:4 本、救急隊員学術研究会:2 本)となり、査読継続 2 本、投稿辞退 2 本、論文受理率は 93.9%となった。

広告は 7 社となった。各常任幹事による直接の依頼が奏功したと推測される。編集作業のおおよそのスケジュールは例年通りであった。

また、学会誌の電子化について J-STAGE 掲載の進捗について報告され、可能であれば次号からオンライン化することが了解された。

⑥ ホームページについて(田中常任幹事)

定例通りに更新が行われていることが確認された。赤字体質解消の一助として UMIN への移設を実施した。5~7 月を平行運用期間とし、7 月末をもって旧ホームページを閉鎖、移設を完了したことが報告された。

3. 第 68 回(平成 30 年)日本救急医学会関東地方会について(森村会長)

演題数は総計 283 題で、あいにくの雪にもかかわらず盛況に開催されていると報告された。

4. 第 69 回(平成 31 年)日本救急医学会関東地方会(河野次期会長)

第 69 回日本救急医学会関東地方会・第 56 回救急隊員学術研究会を 2019 年 2 月 2 日(土)につくば国際会議場にて同日開催することが報告された。

《審議事項》

1. 2017 年決算報告(河野常任幹事)

年会費収入については例年より少なく、予算に対して 50 万円以上の赤字となった。特に幹事会員からの納入率が例年 80%超のところ、78%と割り込んでおり、常任幹事会より各幹事に年会費の納入についてお願いがあった。

以上の決算について坂本・山口監事による監査が行われている旨が報告され、2017 年度決算が承認された。

2. 会則変更について(三宅常任幹事長)

若手医師の本会参加を促すため、救急科専門研修専攻医はプログラム登録初年度に限り会費を免除すると
の会則変更が常任幹事会より提案された。議場に諮られ、賛成多数で承認された。

3. 2018 年予算について(河野常任幹事)

収入については会費収入 630 万円、補助金 20 万円のおおよそ計 650 万円を見込む。広告費は学会雑誌の電子化に伴い、ゼロとなる。その他の額面は主に前年度決算額を参考に計上した。支出については刊行費 380 万円、地方会補助費 220 万円、会議費を 10 万円に縮小、交通費 15 万円等々を見込み、支出合計は約 820 万円となる。トータルで 160 万余円の赤字予算となる。電子化に伴う刊行費の圧縮が期待される。

議場に諮られ、2018 年度予算が承認された。

4. 名誉会員推戴について(三宅常任幹事長)

堤 晴彦先生を名誉会員として推戴することが承認された。

5. 次々期会長について(三宅常任幹事長)

2020 年開催の第 70 回日本救急医学会関東地方会(学術集会)の会長として、前橋赤十字病院の中野 実
先生が就任することが承認された。中野次々期会長より挨拶があり、会場・期日共に詳細はこれから検討を進め
るが、2020 年 1~2 月頃、前橋市内にて実施する旨が報告された。

5. その他

学会誌の電子化を進めるにあたって、学会名の英表記を定める必要があることが資料に沿って説明された。
夏頃までを目処にホームページで会員からパブリックコメントを募集し、それを踏まえて夏頃に開催予定の次回
常任幹事会にて決定するとされた。

以上

議事録作成：事務局 戸井田 恵一

上記決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び議事録署名人が次に記名押印する。

平成 30 年 1 月 27 日

日本救急医学会関東地方会 平成 30 年度 幹事会

議 長： _____ 印

署名人： _____ 印

_____ 印

【捨印】

印

印

印